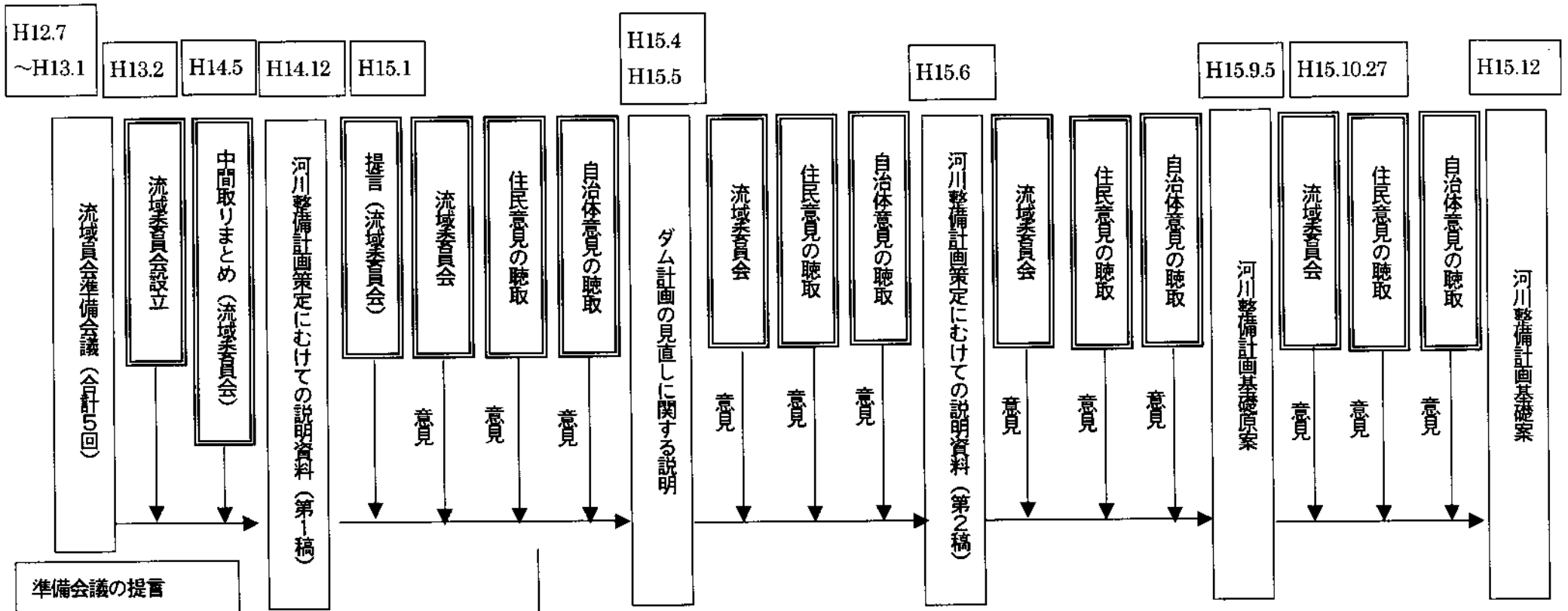


河川管理者からの提供資料

淀川水系流域委員会
第24回委員会 (H15.9.5)
資料 3-1補足



準備会議の提言

- ・流域委員会の公開と運営について
- ・流域委員会の特徴について
- ・流域委員会委員候補の選定について
- ・流域委員会の組織構成について
- ・住民意見の聴取方針について

流域委員会関係開催数

委員会	52回
地域別部会	87回
WG	24回
シンポジウム	2回

流域委員会関係開催数

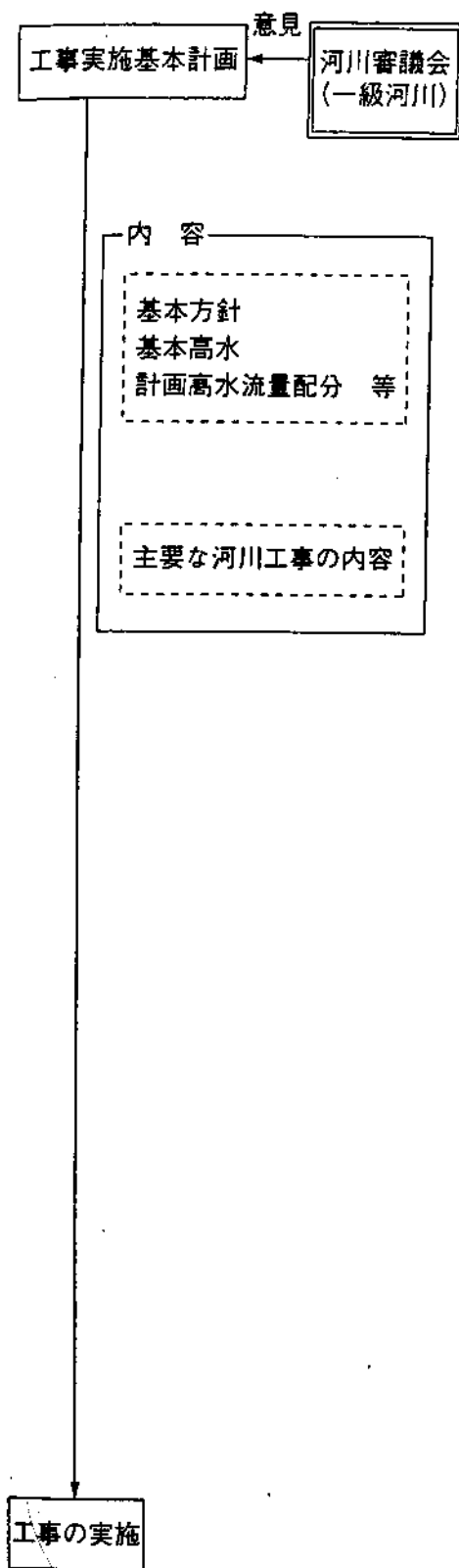
委員会	8回
地域別部会	11回
テーマ別部会	40回
シンポジウム	1回

河川整備計画策定にむけての説明資料等説明会開催回数 (参加人数)

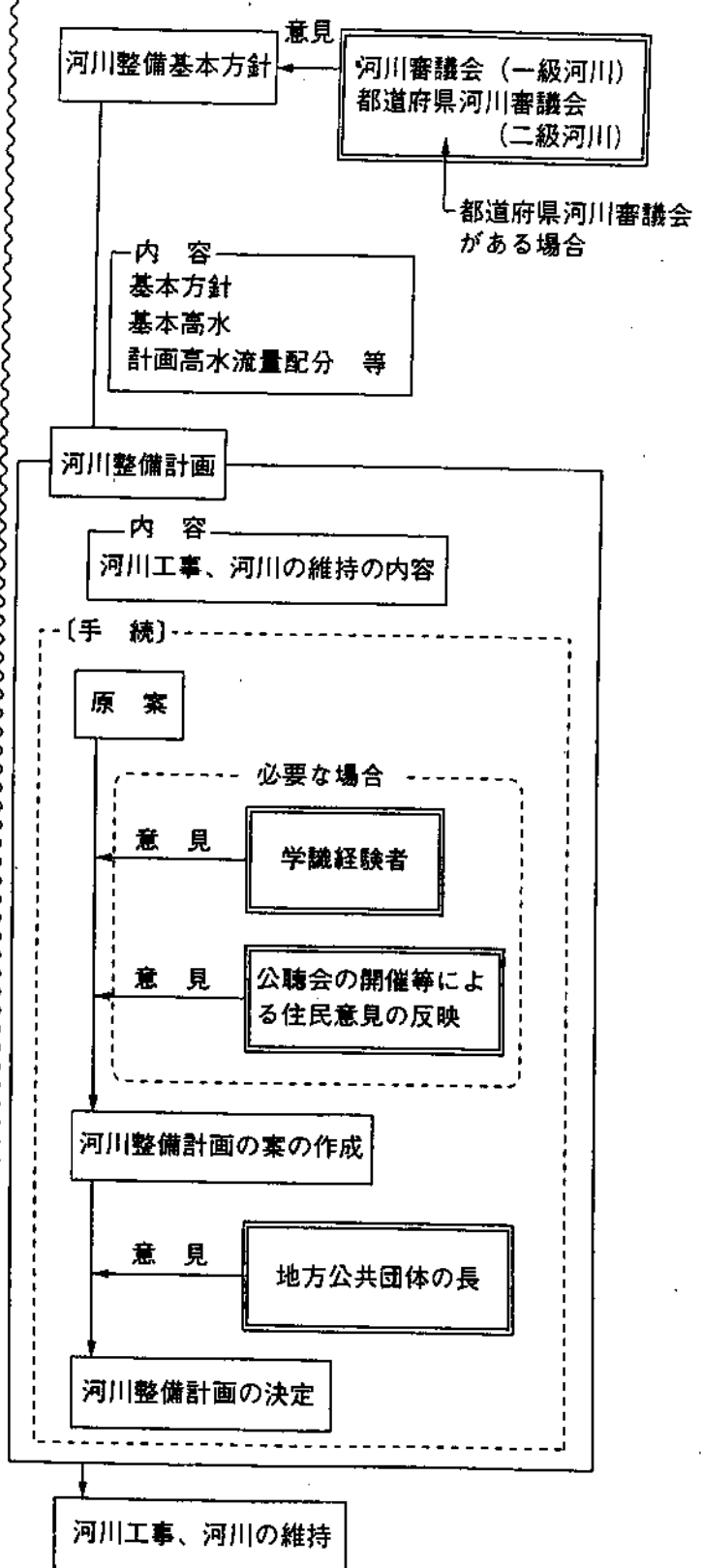
住民説明会	33回 (2, 299人)
自治体説明会	73回
関係団体説明会	39回

(H15.8.6時点)

旧制度

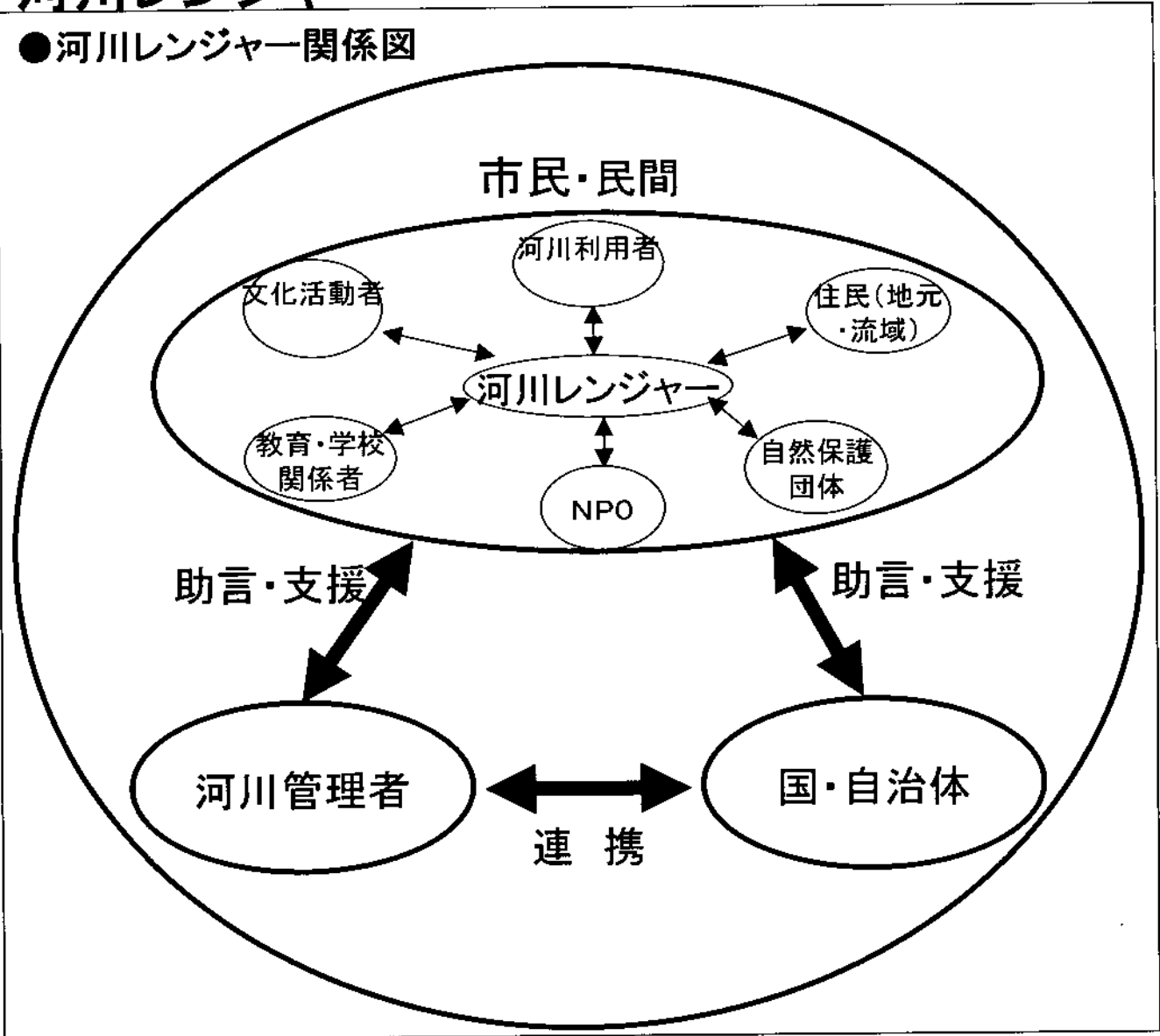


新制度



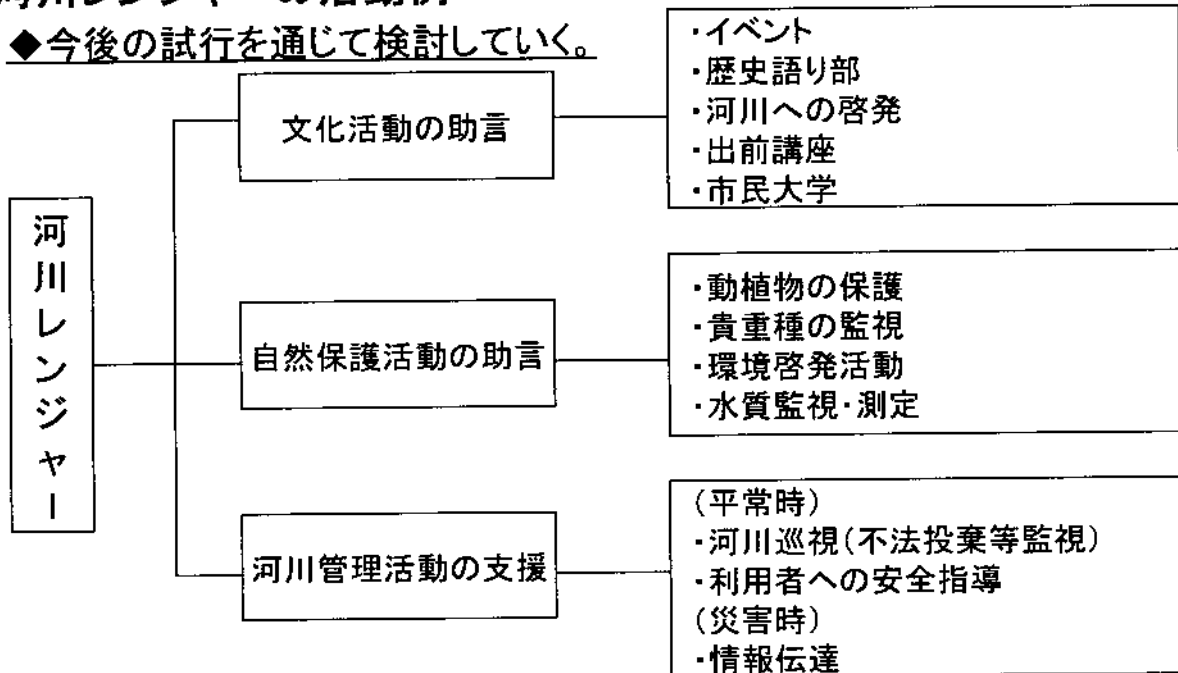
河川レンジャー

●河川レンジャー関係図

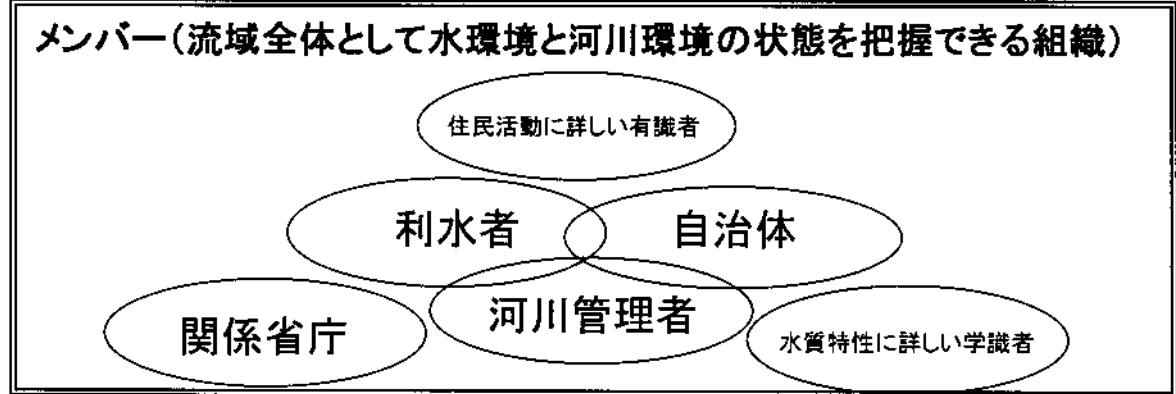
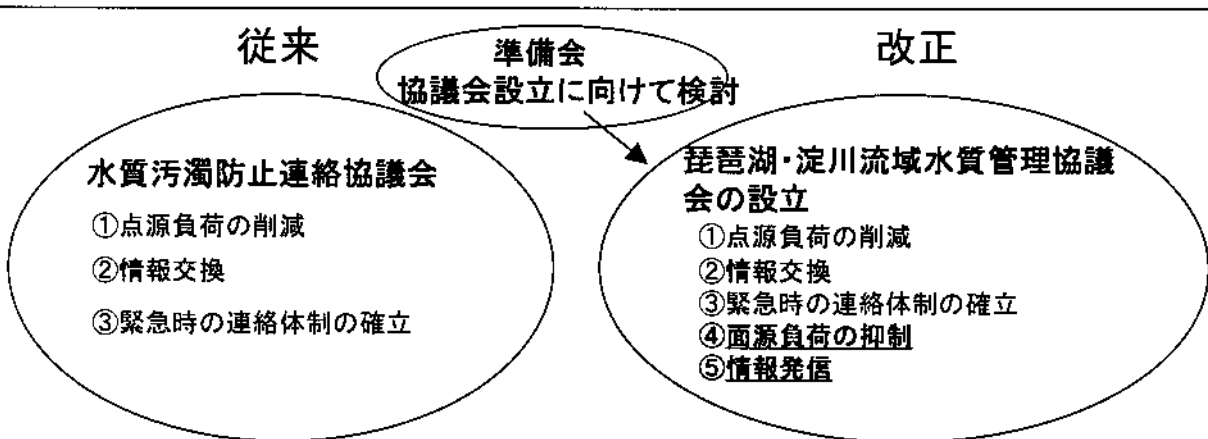


●河川レンジャーの活動例

◆今後の試行を通じて検討していく。



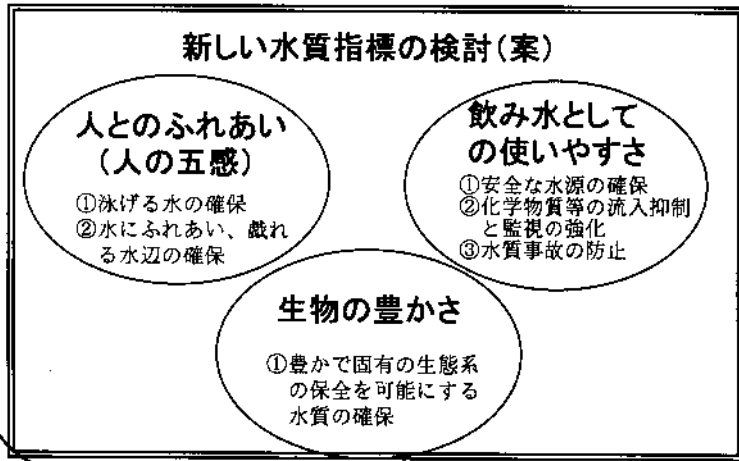
琵琶湖・淀川流域水質管理協議会(仮称)の考え方



- 琵琶湖・淀川流域水質管理協議会で新たに下記の項目に取り組む**
- ①河川の特성에応じた、分かりやすい水質目標の設定
 - ②関係機関等との情報共有の強化
 - ③住民連携強化のための一層の取り組み
 - ④油やその他の化学物質の流出事故の防止・対処の取り組みの強化
 - ⑤具体的なアクションプログラムの作成とフォローアップ体制の検討

流域全体として汚濁負荷を減少

新たな目標の設定: 流入負荷量の管理



流域の住民が連携して、新たな目標の達成に向けて取り組む体制を築く

水害に強い地域づくり協議会(仮称)

水害に強い地域づくり協議会(仮称)
河川管理者、沿川首長、住民

〇〇部会(自分で守る)

(情報伝達、避難体制の整備)

- ①意識の啓発
- ②情報提供
- ③住民やマスメディア等への洪水情報提供
- ④浸水実績表示
- ⑤浸水想定表示
- ⑥避難誘導等体制の整備
- ⑦避難訓練等
- ⑧情報伝達体制等の基盤整備

〇〇部会(みんなで守る)

(水防活動、河川管理施設の運用)

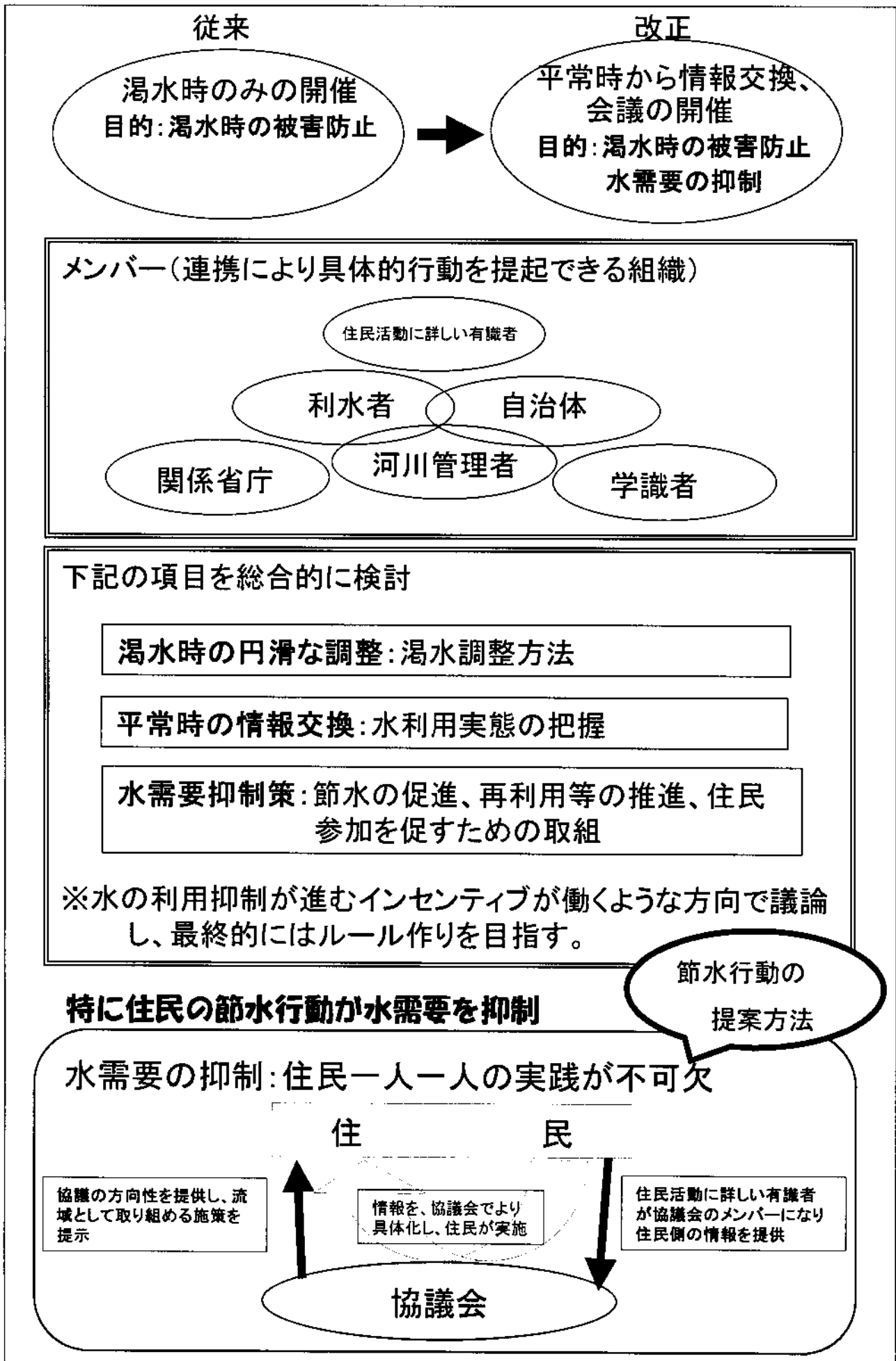
- ①水防団との連絡会において、課題、支援の方策等について検討する
- ②防災機関との連携
- ③広域防災施設整備対策
- ④災害対策用車両の搬入路等の整備
- ⑤非常用資器材の備蓄
- ⑥排水機場運用の検討

〇〇部会(地域で守る)

(街づくり、地域整備)

- ①土地利用の規制・誘導
- ②建築物耐水化
- ③流域内保水機能、貯留機能強化

「渇水対策会議を改正した組織」の考え方



河川保全利用委員会(仮称)

●体制

・河川保全利用委員会(仮称)委員会体制(案) <10名程度>

学識経験者	環境分野
	都市計画分野
沿川自治体	環境担当部局
	都市計画担当部局

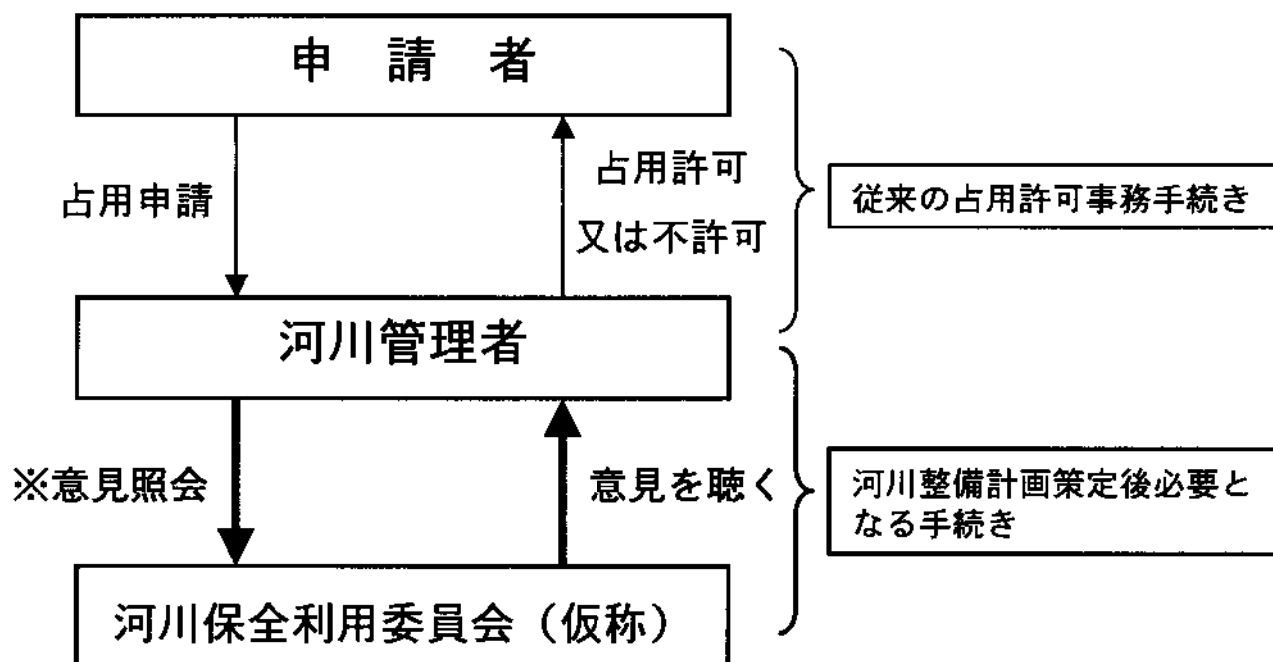
・自治体については、全体的見地から府県とする。

・構成、人数はバランスに配慮する。

・地域住民の参画方法については、委員会において意見を取り集める方法とする。

●フローチャート

・河川敷利用(占有許可)フローチャート



ゴルフ場、公園等占有施設の新設及び更新の許可にあたって、河川管理者からの意見照会を受け、周辺環境及び地域性に考慮しつつ、川らしい自然環境を保全・再生する観点に立って、占有施設のあるべき姿について検討を行い、河川管理者に対して意見を聴く。

※委員会への意見照会は、標準処理期間内の処理が必要なため実務的には申請前が望ましい(更新案件については年度毎にまとめて照会)。